

# 中川原盆踊り

中川原公民館主事

藤田和雄



▲バザー也大賑わい

8月24日(土)午後7時から中川原コミュニティ広場で、踊り子、見物客約300名が参加し、盆踊りが和やかに行われ、大変盛り上がりました。この盆踊りは三世代交流の貴重な場となっています。曲目は、「まださき音頭」、「おいでや小唄」、「炭坑節」、「きよしのズンドコ節」、「明日があるさ」の5曲で3日間練習しました。2歳くらいの子どもさんが練習終了後、「まだ踊りたい。」とお母さんをお願いしている



▲リズムにあわせて踊りましょう!

ほほえましい姿がありました。当日は指導に当たった「輪の会」の方々が不在で心配でしたが、皆さん上手に踊ることができました。大人の苦手なテンポの早い「きよしのズンドコ節」、「明日があるさ」を子どもたちは、喜んで元気よくリズムにのって踊っていました。バザーは愛護部が担当し、かき氷、ビール、焼きそば、いか焼、綿菓子など好評で、すべて売り切れました。中川原地区は何事にも、ま



▲いか焼のこうばしい香り…

とまりがよく、いろいろなイベントに協力的で、当日は朝7時より、各組長、各種団体役員、大字役員数十名がヤグラやテントの組立て、売店、音楽放送などの準備を行い、9時過ぎに完了しました。特にヤグラや音楽放送関係はエキスパートの方がいて、順調に仕上がりました。さわやかな汗をかいて地区の皆さんが交流や親睦を深めることができました。

## 世界の中の一人として

岡田小学校人権・同和教育主任

土居宣子

今年の6月、ワールドカップに夢中になった方も多いいのではないだろうか。かくいう私もわかサッカーファンとなった一人である。ところが、ワールドカップもクライマックスに近づいた韓国―イタリア戦の直後、信じられない言葉が飛び込んで来た。イタリア戦でゴールデンゴールを決めた韓国の安貞桓選手に対して、その選手の移籍先であるイタリアサッカーチームを率いる会長が、「イタリアのサッカーを壊すような者に給料を払うつもりはない。」と、堂々とテレビ局の取材陣に語ったのである。負け惜しみではすまされない言葉だと思った。あのような非道徳的な言動をした人に対して私は、怒った。別の局のニュースでは、「アジアの選手はもうイタリアには必要ない。」のような言葉も付け加えられて報道されていた。恥ずかしいことに、この言葉を聞くまでは、やっぱり他人事として聞き、ただ同情して

いた自分に気づいた。ところが、アジアという言葉で一括されたとき、初めて怒りが自分のものとして目覚めるのを感じた。この怒りは、数分前に聞いたニュースのときのものとは、明らかに違っていた。結局、この騒動は、国際的な非難を浴び、態度を一変するというなんとも後味の悪い結末になってしまった。

この一件から、差別意識は、自分が気がつかないうちに言葉となって、態度となって滲み出てしまうことを改めて感じた。世界的な舞台でも差別発言が残っているという恐ろしい現実。そんな中で、これからの私たちは、自分を見つめ、周りの人を世界的な視野で見つめていかなければならない。人権・同和問題は、人間形成の根底の問題である。私たちはみんな、大人でも心は未成熟。そう戒めながら、一生涯続けて、人権感覚を磨いていこうと心に刻みつけた。世界の中の一人として。